

07 ゴールデンウィーク 隠岐クルージング

4月24日(火) 廿日市港	0600	~	59 マイル	~	姫島拍子水港	1500	渡海・佐竹・日野・山口
25日(水) 姫島拍子水港	0600	~	63 マイル	~	フィッリナ室津	1630	渡海・佐竹・日野・山口
26日(木) フィッリナ室津	0600	~	43 マイル	~	見島 本村港	1300	渡海・佐竹・日野・山口
27日(金) 見島本村港	0600	~	61 マイル	~	温泉津港	1600	渡海・佐竹・日野・山口
28日(土) 温泉津港	0500	~	70 マイル	~	西ノ島 浦郷港	1600	渡海・佐竹・日野・山口・原
29日(日) 浦郷港泊	国賀海岸バス観光						渡海・佐竹・日野・山口・原・山本・杉山・平田
30日(休) 浦郷港泊	国賀海岸遊覧船観光・中ノ島観光						渡海・佐竹・日野・山口・原・山本・杉山・平田
5月1日(火) 浦郷港	0600	~	49 マイル	~	大社港	1500	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田
2日(水) 大社港	0600	~	52 マイル	~	三隅港	1530	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田・中野
3日(休) 三隅港	0500	~	38 マイル	~	見島 本村港	1330	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田
4日(休) 見島 本村港	0600	~	43 マイル	~	室津	1430	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田・鳴戸・与理
5日(休) 室津	0600	~	87 マイル	~	平郡西浦港	1700	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田・鳴戸・与理
6日(日) 平郡西浦港	0600	~	40 マイル	~	廿日市港	1630	渡海・佐竹・日野・山本・杉山・平田・鳴戸・与理

<その4>

第11日目 5月4日(金) みどりの日

レポート：平田欽也(隠岐 浦郷港乗船)

見島～室津港

天候：晴れ後曇り 風：中風



昨日より、鳴戸さんと息子のアタリが加わり乗員は総勢8名。06:11に見島本村港を出港し、南南西43マイル先の室津港へ向かった。昨日から強かった風と波はやや弱まったものの、今日も向かい風でスプレーは避けられそうにない。初の日本海、初の外洋デビューを果たすアタリがちょっと心配。出港前に合羽とライフジャケットをしっかりと着用させて、コックピットに座らせた。港を出て間もなく、アタリの隣にいた山本さんから「イエローカード！」の声あり。慌ててバケツを持って行こうとしたが、荒天準備でガチガチにロープで縛られているバケツが取れない・・・ああ～と言う間

にコックピットに発射！アタリは、早くも日本海の洗礼を受ける。やっぱりいきなりの日本海は、体が慣れていないのでチトきつかったかな～。鳴戸さんも風邪気味で調子悪そう。こうして見島合流組は、仲良くアフターキャビンでダウンする。「よし、息子の為にも早く室津港に到着しなくては！」使命感に燃えた私は、張り切ってジブセールを上げ、メインシートを引き、ラットを握ってクローズホールドを攻めまくる。船はヒールし、デッキを洗い始める。激しいピッチングと共にスプレーを浴び、船速が上がり快感が走る。「これぞセーリングの醍醐味！」と、喜びもつかの間、アフターキャビンからアタリの悲鳴が聞こえて来る。みんなからも「息子が苦しんでいるのに、とんでもない親父だ！」と責め立てられる。



残念だがセーリングを諦め、息子の介抱にキャビンに向かうことにする。

14:30 室津フィシャリーナに入港。ここは天然の良港で、波も風も無く嘘のように静かだ。フィンガー棧橋の先端に舳い、湿気た毛布や合羽を大漁旗のように干す。棧橋には水道と電源が完備されており、早速、水を補給。アタリはすっかり元気を取り戻し、「まだ昼ご飯を食べてないよ～お腹減った」と訴える。「さすが我が息子！」と親バカぶりを存分に発揮しながらタクシーを呼んで川棚温泉へ向かう。連休はピークを迎え、旅館やお店はどこも賑わっている。本日の風呂と食事は何処にしようか、アンテナを張り巡らせる。先発隊のリサーチを生かし川棚グランドホテルに決定。温泉にゆっくりつかって疲れをとった後、生ビールで乾杯！これだからクルージングは止められない。名物の「瓦蕎麦」と「ひつまぶし」を堪能し、お腹いっぱいになり大満足。帰りのタクシーの中、アタリにそれとなく訪ねてみた。「しんどかったら、明日の朝ここで船を下りて電車で帰ってもいいんだよ・・・」するとアタリは「やだよ！だってヨットの方が楽しいもん！」「あっそう」とそっけなく答えておいたけど、心の中では大喜びのお父さんでした！！



第12日目 5月5日(土)

レポート: 鳴戸栄朗(見島 本村港乗船)

室津 ~ 平群島 西浦港 87 マイル

午前6時20分少し遅い出港となる。平田シェフ・杉山シェフの心こもった調理が食卓に並び、一同ゆっくり和定食を済ませる。天気曇り、風少し、波少し、お世話になったマリーナを後にする。あたり君「平田ジュニア」の舵取りで湾を出てまもなく南向き進路に、日本海から瀬戸内海に向かう。小学3年生ではあるが親にくっついて何度かロングをこなしてステアリングは慣れている。関門海峡入り口まで3時間、海峡通過に1時間の予定。風は真向かいなのでメインセールで機走する。



ところで、予報では今夜には雨模様とか、目的地の変更はやむ無し、姫島泊まりでは翌日が崩れると廿日市帰着が困難になる。本日は20数マイル行程のプラスで泊地を平群島に修正する。

陽を望めない中、雨コートとライフジャケット姿で海峡に突入する。さすが大型船の行き交いが多い。多様な大型船の船体の姿を楽しみながら航路ブイをかすめかすめ6ノットで進む。さて、視界に関門大橋が入ってから、潮流標示灯の内容を考えたり、巖流島での武蔵・小次郎を思い浮かべたりでさらに瀬戸内海に近づく。

思いもかけず門司港・外埠頭に気高な4本マスト日本丸船首がこちらを向いているのを認める。ゼーファラーは航路を九州寄りに変えたばかりで、大型帆船の間近にコースをとれる。ブローを受けてヒールしながらすぐ横を滑っていくなか、4本マストをシルエットに売れっ子ジュニアの撮影会と化す。日本丸の船尾に抜けると手を振って離れた。ジュニアに構っていると時間が早い。瀬戸内海側の潮流標示灯では「向潮5ノット」とあり、エンジン回転をアップして大橋のたもとを進む。こうした進み具合でやっと激流を乗り切る。

11時、瀬戸内海に抜け落ち着いたころデッキでの昼食になる。随分前より杉山シェフがキャビンからいい香りを漂わせていたミートソーススパゲッティとフランスパン、温かいウィンナーなど並びと、一同そろってゆっくりと味わう。至福のときがながれる。

ただ、2時間もすると早くも天候の変化、雨がぼつりぼつり降り始める。幸いにも対向船のなくなった航路をメインセールと機走する。ワッチで朝から外にいる佐竹・日野・鳴戸で日没までならと、強さの増す雨の中の航行を続ける。いつまで経っても風と波が正面寄りなのは嫌になる。もう海峡を抜けた後はオートパイロット任せのままだがバウが突っ込むのをトリムする。進路を祝島に向け東進するほど雨が激しくなる。RCC ラジオの野球中継が流れて、今日も広島カープが勝利したのを片耳にぼんやり聴くが、まわりの船影に神経を集中する。土砂降りですら2~3百メートル視界となるともう前のみ注視するしかない。こちらは5ノットで進んでも相手は20ノット以上だろう、その遭遇の対処はそのときの最善で考えるなどと思っていると山本氏が顔を覗けてワッチしてくれる。さらに渡海さんが号鐘の用意と、人が大勢になると心強い。午後6時半、雨足が少し弱まるが薄暗くなるころ対向船や併走船が現れはじめた。杉山君を加えたメンバーからワッチの交代コールがある。限界状態に近づいていた私は、すぐにキャビンの中に下がる。横になり半酔いのまま眠れない状態であれやこれが頭の中を巡り回っているうちに到着したのでデッキに出る。21時20分平郡に。

冷えた体に「アツアツ」うどん夕食



私はバースに横たわった3時間のワッチ者の苦勞は知る由もなし。地元の漁師さんに当夜東の風に向いた定期船発着隣りを案内され、ゼーファーラーを舫う。遅くなったが平田シェフ特製アツアツの煮込みうどんをおなかに詰める。長い一日だった今日も疲れた！

南西諸島クルーズのような訳にならない、追っかけてきてからの、今年のクルーズは晴れ間がないので気温が低く半そでシャツ1枚短パン姿に誰もしなかった。

今回のクルージングで食べた鍋物

キムチ鍋



すき焼き



雑炊



5月5日(土) 見島から広島の廿日市港まで乗船した小学3年生のレポートです!

日本海クルージングに参加して

五日市南小3年3くみ ひら田 あた理

一番楽しかったことは、関門海峡を通ったことです。たくさんの船にあいました。船のしゅるいは、漁船と、ヨットと、コンテナ船と、タンカーと、海上保安船と、フェリーと、帆船と、か物船と、バラづみ船と、かん光船と、高そくていと、ゴムボートと、木ざいうんぱん船の13しゅるいでした。まるで、船の図かんを見ているようでした。その中で、帆船の日本丸を見られたのがうれしかったです。日本丸は、門司港の港祭りに来ていました。ぼくが、かじをにぎって近くに行きました。日本丸は、大きかったです。マストが4本もありました。海上保安庁のじゅんし船もとなりに来ていました。大きくなったら、ぼくも日本丸ののりたいたいです。その後、関門橋をくぐって瀬戸内海にはいりました。はじめての日本海は、風と波が強くてちょっとこわかったです。



大島の瀬戸 お父さんと



操船中 海のおじいちゃんと



保護者4人と(船頭多くして何とやら)



フィッシャリーナ室津 お父さんと



セールちゃんと上がったかな



霧に煙る関門大橋

第13日目 5月6日(日)

レポーター：山本孝司

最終日、の前夜

4月29日から参加し3日間ラットも包丁も手にしないクルージングは初めてでした、日本海に浮かぶカルデラ火山の島隠岐から・・・海里、先日、室津港より瀬戸内海に入り姫島に停泊予定であったが、昼間は0.5海里程度まで霧のため視界が悪くなり夕刻の予報では明日は、低気圧が四国沖を通過する予報が有り少し足を伸ばし平郡島に予定を変更する。

1930 夕闇が深まり幸いにも視界が良好になる、ワッチは渡海、杉山、山本の3名でスキッパーを渡海氏に任



せ両舷ワッチで祝島南端を目指す、本線航路のブイを確認しながら祝島通過後本線航路を横切り八島の北側を航行中 6 時の方向に追い越し船有り、マスト灯と赤色灯を確認し後方より接近中の本線の行方を見守りとゼー



ファーラーの後方を通過すると判断した、その船はやがて赤色灯が見えなくなりマスト灯のみの灯火で青色灯無しで物凄い勢いで 0.2 マイル斜め後方から水中ジェット 2 基掛けの高速艇が通り過ぎていった。

その頃から平郡島の港の明かりが鮮明に確認出来た、港に近づくとなにやら状況が変で防波堤が又延長されていた、何時ものように旧連絡線の船着場に係留しー安心していると地元の漁師さんが「今夜からの風は西側に変わり強く吹きそうだから此処に係留すると明日の朝には離岸できなくなるだろうから、古

いフェリー乗り場に係留したほうがええ」と言われ小雨の中、移動することにした、其処は私たちが今回最初に係留した場所から 2 代目、3 代目の船着場で、沖の防波堤が段々伸びるたびに船着場も移動していったという、今は、4 代目の船着場が出来上がっていた。

荒天準備にボラードに舳をとるが擦り切れ防止のためチェーンを利用し万全を期した、今夜は佐竹漁労長に漁を頼もうにも餌を仕入れる店も締め新鮮な魚は手に入れることが出来なかった。それでもゼーファーラーの厨房では 2 名のシェフが・・・を作り今夜もご馳走をいただいた



(感謝)5月6日最終日、ゆっくり朝起きると予想外の天候で風も弱く雨も無くうす曇りの平郡島を出港する、瀬戸内海に帰ってくると全員元気である、大島の瀬戸を逆潮で通過し最後の昼食を島影ですることになり甲島に決定する、この島は今を去ること 30 数年前の忌まわしい記憶のある島で岩国の海上保安庁にお世話になった事を思い出す。

今日のランチはチーズサラダと杉山シェフのパスタ、デザート付、釣り舟の観察をしたりこの島に放牧されているという牛が見えないかなーと、ゆったりとした時間を過ごした。

此処から先は、母港まで約 2 時間、何時ものように船内の片付け備品の整理ごみの仕分けを行い全員無事に 4 号桟橋に到着し皆さんお迎えの車に日本海のお土産と思い出話持って雨の中解散した。

私事ではありますが、4 月 1 日に転勤し、現場を見ることになりゴールデンウィークの中日に休暇を入れる事が困難な状態で、今回のクルージングには参加できないと思いあまり、準備しなかった事を反省しています。



古き友、新しき友人とのクルージングは楽しいものである、ゼーファーラーのメンバーも高齢化が進むと又楽しみも増えるもので、忙しいけれど時間に余裕が出来たメンバーが居る事で足を伸ばすことが出来るようになり大変感謝しています、来年も又「忙しいでしょうけれど」私達を遠くに連れて行ってください来年も企画するぞー。

この写真はどんな状況を写した写真でしょうか???